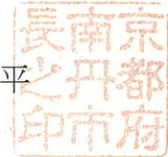


1 南農農業第 297 号  
令和元年 11 月 7 日

南丹市農業委員会  
会長 大沢 泰一 様

南丹市長 西村 良平



南丹市農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書への  
回答について

令和元年 10 月 21 日付け、1 南農委第 367 号で提出された標記の意見書につ  
きまして、別添のとおり回答いたします。

## I. 有害鳥獣対策について

有害鳥獣による被害は、大切に育てた農産物の収穫を無にし、生産意欲を減退させるものであるので、どの農業関連施策にも増して、下記により積極的な支援を講じられたい。

(1) これまで様々な有害鳥獣対策がなされてきたが、目に見えて大幅に被害が減少したという状況までには至っていない。

については、有害鳥獣被害の傾向を的確に把握し、それをもとにした計画的な駆除・防除の体制を確立するため、大学等の研究機関と連携するプロジェクトチームを立ち上げられたい。

(2) 有害鳥獣捕獲のために狩猟免許を取得するための補助金の活用により、免許保持者が増えるに至ったが、鳥獣捕獲を継続していくためには免許の更新費用や罠の機材費など相当の費用を要することから、活動を休止されている方が見受けられる。

については、免許の更新や罠の機材などの費用に対する補助事業を創設し、捕獲を継続しやすい環境を整備されたい。

(3) 有害鳥獣を捕獲しても、その処分に係る施設がないことから、捕獲者が人力で埋設するなど大きな負担となっている。

については、近隣市町と連携することで、スケールメリットにより、低負担で大規模な焼却施設を設置されたい。

《回答》

本市を取り巻く有害鳥獣による農林水産物の被害は甚大で、農地や林地への経済的な被害のみならず、農林家の生産意欲や営業意欲の減退、耕作放棄地の増加など被害が拡大している状況にあり、的確な鳥獣被害対策を推進することは、これまでの回答と同様に、極めて重要であると認識しているところです。また、本市においては、南丹市猟友会との委託契約に基づく有害鳥獣の直接捕獲対策や、市が事業主体となって取り組む防護柵等の被害防除対策の両面から、有害鳥獣による被害対策に取り組んでいるところです。

ご指摘のとおり、有害鳥獣対策のより有効な方策を確立するためにも、京都府を含め有害鳥獣対策に関連する様々な関係機関、関係者と連携を図って参りたいと存じます。

有害鳥獣の捕獲等に対する南丹市有害鳥獣捕獲班員を養成するため、新たに狩猟免許の取得等に要する経費等に対し、南丹市狩猟免許等資格取得事業補助金交付要綱に基づき補助金を活用頂いているところですが、免許の更新費用や、わなの機材費等については補助対象になっていない状況です。ご指摘の内容については、今一度実態を確認し、今後の補助事業創設の参考とさせていただきます。

有害鳥獣捕獲後の処分については、現状では処理施設が無いことから、暑い日も寒い日も関係なく労力を要する埋設等により処理頂いているところですが、処理施設の設置については、南丹市議会一般質問等においても早期の対応を求められ、市長からも早期の対応が必要と答弁されているところです。

用地の選定や処理方法、近隣市町の連携等十分検討した上で、早急に進めて参りたいと存じます。



## Ⅱ. スマート農業の普及推進について

過疎化や高齢化による労働力の不足を補うためには、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化することが必須であるので、下記により積極的な支援を講じられたい。

(1) 国、府が実施するスマート農業関連施策の情報をいち早く収集するとともに、市単独の上乗せ補助を行うなどにより導入を誘導し、当市が中山間地域におけるスマート農業の先進地となるような取り組みをされたい。

### 《回答》

スマート農業は、国では研究段階から現場において、スマート農業加速化実証プロジェクトが本年度より全国 69 か所で 2 年間実施されて、農林水産省が保有・収集するデータが農業データ連携基盤(WAGRI)において、より活用(年間契約・有料)されるよう環境整備が行われる予定であります。

しかし、このスマート農業は、農地において、無人農業機械は実用化へ進んでいますが、農地から農地へ移動する公道等への規制があることや通常の農業機械よりも価格が遥かに高いこと、また電波を飛ばす衛星の基地局が中山間地域では電波が飛ばずに農業機械が止まるような不具合が生じるなど、まだまだ本格的な普及には困難であることの現状があり、ひとつひとつハードルをクリアしていく必要性があります。

このような中で、この実証プロジェクトには、本市も京都府に対して立候補をしていたのですが、隣市が採択された経過もありますし、最先端技術を活用することで、農業の省力化等に繋がることについては、市単独事業である「南丹市がんばる農業応援事業」等で支援することも検討していきます。